

昭和改元100年記念

近現代建築の文化的価値と

保存活用の可能性

～都市の価値を高める建築デザインとは～

2025 11.23 [日祝] 15:00▶17:30
開場14:30

[会場] スペースデネガ (弘前市上瓦ヶ町11-2) [参加費] 無料



お申し込みは
← コチラ!!

※定員150人に達し次第
受付終了となります。



※会場に駐車場がありませんので、
近隣の有料駐車場や公共交通を
ご利用ください。

■お問い合わせ…弘前市都市整備部都市計画課 TEL 0172-34-3219

プログラム

●15:00～17:30(開場14:30)

《講演》

●15:05～15:50

●京都工芸繊維大学准教授 笠原 一人

～老朽化で更新時期を迎えている近現代建築の思想やデザイン、その保存と活用の事例紹介～



笠原 一人(京都工芸繊維大学准教授)

専門分野は近代建築史および建築保存再生論で、京都モダン建築祭実行委員長・神戸建築祭実行委員・一般社団法人リビングヘリテージデザイン(旧住宅遺産トラスト関西)理事を務めている。

著書に『ダッチ・リノベーション』『村野藤吾のリノベーション』『建築家 浦辺鎮太郎の仕事』『建築と都市の保存再生デザイン』『関西のモダニズム建築』ほか。

●15:50～16:35

●東北大学大学院教授 五十嵐 太郎

～歴史・文化的な価値を考慮した近現代建築の改修デザインが、都市の魅力や価値を高めることにつながる～



五十嵐 太郎(東北大学大学院教授)

あいちトリエンナーレ2013芸術監督、第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館コミッションナーを務める。『窓展：窓をめぐるアートと建築の旅』『装飾をひもとく～日本橋の建築・再発見～』『アニメ背景美術に描かれた都市』などの展覧会を監修。

著書に『誰のための排除アート?』『新宗教と巨大建築』、『増補版 戦争と建築』ほか。

第64回芸術選奨文部科学大臣新人賞、2018年日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞。

《パネルディスカッション》

●16:45～17:15

～弘前の近現代建築の保存・活用の可能性と今後の景観まちづくりにどのように生かすか～

●京都工芸繊維大学准教授 笠原 一人

●東北大学大学院教授 五十嵐 太郎

●弘前大学特任教授 北原 啓司



北原 啓司(弘前大学特任教授)

弘前市景観審議会の会長を30年以上、平成27年3月からは弘前市都市計画審議会の会長を務めるなど、長きにわたり当市の都市計画・景観行政に尽力。「まち育て」をキーワードに、県内外の自治体の都市計画や住宅政策、景観にかかわる委員を務めるほか、東日本大震災以来、国土交通省、大船渡市、宮古市、石巻市等の震災復興に関わる様々な委員を務める。またコミュニティFM「まち育てないと」DJを23年にわたり継続しており、2016年住総研清水康雄賞、2021年日本都市学会特別賞受賞。著書に『「空間」を「場所」に変えるまち育てまちの創造的編集とは』『SDGsを足許から考えかたちにする』『まち育てのススメ』。

日本近代建築の巨匠・前川國男の生誕120周年を記念して、弘前市に残る8建築作品のパネル展を併せて開催します。